

日本生体医工学会 平成26年度 第5回理事会 議事録

日時： 平成27年1月16日（金） 14:00～17:00

会場： AP 東京八重洲通り 12階 Oルーム

<出席者>

理事長	副理事長		理事															監事		幹事		
佐久間 一郎	野村 泰伸	山家 智之	石原 謙	伊関 洋	大城 理	大須賀美恵子	木村 裕一	楠岡 英雄	椎名 毅	砂川 賢二	中沢 一雄	橋爪 誠	増山 理	松田 哲也	松村 泰志	村垣 善浩	吉田 正樹	阿部 裕輔	牧川 方昭	植野 彰規	花房 昭彦	
○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×

第54回大会長	第54回事務局	北海道支部長	東北支部長	甲信越支部長	関東支部長	東海支部長	北陸支部長	中国・四国支部長	九州支部長
岩田 彰	松本 健郎	清水 孝一	松木 英敏	小林 俊一	福井 康裕	平井 真理	中村 真人	木内 陽介	樗木 晶子
×	×	×	×	×	×	×	×	○	○

<配布資料>

- 26-5-2 平成26年度第4回理事会 議事録案
- 26-5-3 平成26年度第5回理事会入退会審査対象者
- 26-5-4 平成26年度各賞応募状況
- 26-5-5-① 研究会長交代申請書
- 26-5-5-② 平成27年度専門別研究会新設依頼書
- 26-5-6 理事・監事および代議員選挙規程の改定について
- 26-5-7 生体医工学シンポジウム2014開催報告
- 26-5-8-① サマースクール報告書
- 26-5-9 2015.1.16 理事会編集関係資料
- 26-5-10 生体医工学科連絡委員会
- 26-5-11 第54回日本生体医工学会大会
- 26-5-12 第55回日本生体医工学会収支予算案

- 26-5-15-① 大会開催にあたっての参加費・招待者の対応について（素案）
- 26-5-15-② 関東支部の支部長変更の件
- 26-5-15-③ 日本生体医工学会 名誉会長推薦候補者リスト（五十音順）
- 26-5-15-④ IFMBE(国際生体医工学会) Asian Pacific Working Group (APWG) 主催 The IFMBE Asian Pacific Research Network Fellowship Grants 公募について
- 26-5-15-⑤ 他団体との後援・協賛状況

<議事>

1. 理事会成立の件（大城理事）
 - 成立要件を満たしていることを確認し、開会を宣言した。
2. 前回議事録承認の件（大城理事）
 - 議事録確認した。
3. 入退会状況の件（大城理事）
 - 回覧資料および資料 26-5-3 にて入退会状況を確認した。
4. 平成26年度選奨各賞応募状況の件（村垣理事→大城理事）
 - 応募状況を確認した。
 - 論文賞の対象から Advanced Biomedical Engineering (ABE) 掲載論文（2012年、2013年）が漏れていた件については、追加申請をつのり、2013年の生体医工学掲載論文と合わせた中から1編を選出することとした。
 - 論文賞の選出数や、和文誌と英文誌を分けて選出するかについては、来年度の掲載本数や質をみて判断することとした。
 - ABE に対して海外からの投稿が想定されるため、会員の制約（現行では著者全員が本会会員である必要がある）をどうするのか、今後検討することとした。
5. ①専門別研究会会長交代について（楠岡理事）
 - 本件が届出事項であることを確認し、承認した。
5. ②新規専門別研究会申請について（楠岡理事）
 - 資料 26-5-5-②に基づき審議し、承認した。
6. 理事・監事および代議員選挙規定の改定について（楠岡理事）
 - 資料 26-5-6 に基づき審議し、改定案を承認した。
7. 生体医工学シンポジウム 2014 開催報告（大城理事）
 - 資料 26-5-7 に基づき報告が行われた。
 - 2015年の開催ホームページについて「予定」の文字を削除し、支部が主体となることが了承された。
 - 今後の運営に関して支部長に一度集まって貰い、東北支部と東海支部にも加わって貰う議論を行うこととした。候補として、第54回年次大会中の名古屋が挙げられた。
 - 機動性を維持するため、内規で権限を当番校に委譲し、理事は事後チェックを行うような運用を考える

こととした。

8. ①第 11 回サマースクール報告（修正）（大須賀理事）

- 前回の理事会の決定を受けて、報告書の訂正版が報告された。

8. ②第 12 回サマースクール準備状況（大須賀理事）

- 口頭で準備状況が報告された。
- 日程や場所等については、実施主体の先生方の状況を踏まえて決定していただくこととした。
- 過去にどのような学生が参加していたかについて、調査結果を後日報告することとした。

9. 編集状況（木村理事）

- 出版状況について報告があった。
- ABE への電子投稿システムの導入について以下の点が報告された。
 - ◇ 生体工学誌のシステムを ABE へも導入する
 - ◇ 2015 年の生体医工学シンポジウムに間に合わせる
- PMC (PubMed Central) への掲載に向けた作業の現況について、編集規程の改定準備中である旨が報告された。また、以下点が補足された。
 - ◇ 掲載決定後、過去に遡って掲載される
 - ◇ 論文数は例年並みであるが、ABE への移行により和文誌は若干減ってきている
 - ◇ 倫理承認の取扱いの変更に関連して、一名から質問があり、回答した

10. 第 2 回生体医工学科連絡委員会報告（大城理事）

- 資料 26-5-10 に基づき報告が行われた。

11. 第 54 回大会準備状況報告（大城理事）

- 資料 26-5-11 に基づき報告が行われた。
- 大会中にやっておくべきこととして、「支部長会」と「大会ありかた委員会」を確認した。
- 関連して、大会への課税について以下の点を確認した。
 - ◇ 現在は公益社団法人への移行途中のため支払っていない（税務署は納得済み）
 - ◇ 次の監査までに移行が完了していない場合、納税の義務が生じる
 - ◇ できるだけ速やかに移行を完了したい

12. 第 55 回大会準備状況報告（中村理事）

- 口頭にて以下の状況報告が行われた。
 - ◇ 日程：2016 年 4 月 26 日(火)～28 日(木)
 - ◇ 場所：富山国際会議場＋富山市民プラザ
 - ◇ テーマ（仮）：生命を吹き込む医工学と生命を届ける医工学
 - ◇ 収支見積：本体からの支援金抜きで 200 万円強のマイナスになる恐れ
 - ◇ 見積りに用いている参加費：会員 15,000 円、学生 5,000 円、非会員 23,000 円
 - ◇ 見積りに用いている参加者数：会員 500 名、非会員 200 名、学生 300 名
 - ◇ 学会運営支援は地元（富山）の業者に依頼予定（第 53 回大会の業者より安価）
 - ◇ 演題登録には UMIN を使用する

- 関連して以下の依頼があった。
 - ◇ 本体からの支援金の増額（150万円から200万円へ）
 - ◇ 第54回大会会場での次回大会アピール用ブースの無償提供
 - ◇ 過去の大会の資料
 - ◇ 開催に向けての助言
- 以下の提言があった。
 - ◇ ポスターセッションを増やすと会場費を抑制できる
 - ◇ 参加費を少し上げる選択がある
 - ◇ 企業展示、広告の依頼が考えられる
 - ◇ 助成金の申請が考えられる
 - ◇ 学会運営支援業者について相見積をとり比較してはどうか
- 以下の点を確認した。
 - ◇ 適正な運営をしていただく
 - ◇ 理事間で協力する
 - ◇ 企業展示の依頼先を紹介する
 - ◇ 過去の大会の収支表を「大会あり方委員会」に渡す
 - ◇ 税金は現時点では考えなくて良い（大会は公益事業、学会の会計士が連結決算として対応）

1 3. 第56回大会大会長候補者について（佐久間理事）

- 議案14と併せて検討することとした。

1 4. 大会あり方委員会（山家理事）

- 下記の点について現時点の見解が述べられた。
 - ◇ 大会長の選出方法：公益社団法人になったら公募が必要
 - ◇ 医学と工学が交互に開催してきた慣例：過去はそうだったが、現在はこだわっていない
 - ◇ 何年かに一度は東京で開催してきた慣例：過去はそうだったが、現在はこだわっていない
- 以下の疑問や意見が述べられた。
 - ◇ 正式な社員（代議員）でなくとも大会を開催できるのか
 - ◇ IFMBE との連携をどうするか
 - ◇ 御用達の学会運営支援業者があれば企画の労力を減らせるのではないか
 - ◇ 地方開催の場合、御用達があったとしても地元の学会屋と連携を取らざるを得なくなり、その分コストがかかることが懸念される
- 本理事会終了後に、残れるメンバーにて引き続き検討することとした

1 5.① 大会開催にあたっての参加費・招待者の対応について（松田理事）

- 資料26-5-15-①について説明があった。
 - ◇ 前回から一部変更あり
 - ◇ 人工臓器学会を参考
 - ◇ 大会を総会に修正
 - ◇ いままではB案がオーソライズされている
- 以下の点を確認した。
 - ◇ 問題の発端：大会のOSを企画した専門別研究会が、予算をOS講演者への支払にのみ使用

- ◇ 大会毎に方針がバラバラだった
- ◇ 基本的に本学会から専門別研究会に配られた予算は使えない
- ◇ 本学会以外から得た専門別研究会の資金による支払は、専門別研究会に一任する
- ◇ 独自開催の研究会活動があれば、大会中の OS 企画を年間の研究会活動数にカウントする
- 検討の結果、対応を以下の通りとすることとした。
 - ◇ 基本を A 案とし、×の但し書きを書き直す
 - ◇ 但し書きでは、本学会からの配分予算（25,000 円）は使ってはならない、とする

1 5.② 関東支部長の交代

- 当該支部が管理する案件であることを確認し、承認した。

1 5.③ 名誉会員について（佐久間理事長）

- 規程を確認し、名誉会員には理事推薦が必要であるので留意して欲しいとの説明があった。
- 候補リストについては別の機会に議論することとした。

1 5.④ The IBME Asian Pacific Research Network Fellowship Grants 公募について（椎名理事）

- 資料 26-5-15-①について説明があった。
 - ◇ 菊池眞先生が IFMBE 会長の時に始めた
 - ◇ ネットワーク形成に機能している
 - ◇ 大学が忙しく、2 週間も休めるかが問題
 - ◇ 応募資格は正会員
 - ◇ 博士課程学生は主として準会員
- 応募資格については、今後、博士過程学生まで広げることも議論することとした。
- 2021 の IUPESM に関連して、以下を確認した。
 - ◇ 過去：1991 年に京都で開催した
 - ◇ アジア：韓国と北京での開催済み
 - ◇ 今回（2015 年）：トロントで開催する
 - ◇ 次回（2018 年）：プラハで開催予定
 - ◇ 時期的には日本がやってもおかしくない
 - ◇ オリンピックの 1 年後にあたる
 - ◇ 物理医学会の感触は、本学会がやるなら協力する
 - ◇ 規模：大きい、3000 演題、トロントでは 6 日間、過去のドイツ大会では 3500 演題
 - ◇ 放射線（医用物理）の分野が入ってくる

1 5.⑤ 協賛等の状況

- 回覧資料により確認した。

1 6.その他 ①利益相反会議報告（石原理事）

- 医学会分科会にて開催された、利益相反（COI）会議について報告があった。
 - ◇ ヘルシンキ宣言の改定
 - ◇ 利益相反を厳密に管理する必要がある一方で、厳密に管理しようとするやと疑問が残る
 - ◇ 各組織でルールを作って管理する

- ◇ 学会は利益相反の範囲を決める必要がある
- ◇ 利益相反の定義を質問したが、難しい問題なので分からないとの回答だった
- ◇ 大学にはこなれた雛形はない
- ◇ 基礎研究も COI を明らかにする必要がある
- ◇ 過去の記事は数件で、ほとんど社会問題になっていない
- ◇ 規程がしっかりしていないと、後日クレームの対象になる
- ◇ 国民が良い研究／産業のどちらを期待しているのか
- 不慣れた研究者が簡単に実施できるチェックリストなどの資料を、今後作成することとした。
 - ◇ 人間工学会の投稿規定変更も後日参考とする

1 6.その他 ②第 52 回大会（EMBC'13 と合同開催）報告（砂川理事）

- 以下の報告があった。
 - ◇ 11 月に決着し、(株)コングレへの支払額が確定
 - ◇ コングレの事務局長から財務担当（松田）理事へ連絡
 - ◇ 本学会は IEEE EMBS と契約
 - ◇ IEEE EMBS では決算がでている
 - ◇ 収益が出た場合の配分比率が、純利益の 5%と契約で決まっている
- 決算に向けて以下の対応をすることとした。
 - ◇ 砂川理事が IEEE EMBS に (a)本学会に支払われる金額、(b)振込がいつになるか、を尋ねる
 - ◇ 松田理事も同様の内容を問い合わせる
 - ◇ 振り込まれる時期にイベント全体の決算書を砂川理事から提出いただく
- 公益社団法人申請に向けて以下の対応をすることとした。
 - ◇ To Do リストの作成
 - ◇ 試験事業を公益事業とするための書類準備
 - ◇ 必要書類の準備
 - ◇ IEEE EMBS からの支払額が 2014 年度中に届いていない場合は、2014 年度の決算（2015 年 5 月の名古屋での総会）では未収扱いとする
 - ◇ 2013 年度の決算書を修正するプロセスが必要かを公認会計士に問い合わせる
 - ◇ 2016 年 4 月 1 日の申請を目指す

1 6.その他 ③（佐久間理事長）

- 以下の連絡・報告があった。
 - ◇ 中国上海における第 2 種 ME 実力検定試験実施について、島津委員長にメールで問い合わせ済みであるが、そこから進展がない
 - ◇ ME 試験運用の状況や問題点等について理事会にきて説明いただくという話についても、島津委員長に連絡後依頼後、とまっている
 - ◇ 前回議事録の件も島津先生にはメール送信済みである
 - ◇ 次回、予算を検討する